言語景観としての車のステッカー

ードライバーは何を伝えようとしているのかー

西嶋　義憲

（金沢大学）

yotchan@staff.kanazawa-u.ac.jp

国際都市言語学会 第18回年次大会

南京大学/オンライン

2021年8月28日（土）午前

第三組　日本語言研究

●車のステッカーの例

目的

（1）車のステッカーを言語景観と見なし、
日本社会の言語景観の多様性を示す；

（2）車ステッカーは何をどのように伝えようとしているのかを具体例を用いて分析する；

（3）車ステッカーのメッセージは読み手による積極的な解釈を要求することを示す；

（4）車ステッカーにおいても日本語によるコミュニケーションの特徴が確認できる。

アウトライン

1. 背景
2. リサーチ・クエスチョン
3. 方法
4. 分析
5. 結果
6. 考察
7. 結論
8. 今後の展開

【文献】

1. 背景

- **言語景観の一般的定義**

特定の領域に設置され、視覚に入る公共サインや商業サインに印字されている言語表現
(Cf. Landry & Bourhis, 1997)

- **言語景観を構成する他の言語表現**

移動体である自動車に表示される言語表現としてのステッカーも言語景観を構成

- **ドイツには、こういったステッカーはない**

日本社会特有の言語景観を形成している可能性

- **では、日本でなぜ車にステッカーを貼るのか**

どのような情報をどのような表現で発信？
従来の言語景観研究対象を拡大、新たな視点の獲得
(Cf. 西嶋, 2018)

2. リサーチ・クエスチョン(RQ)

(RQ1) 「赤ちゃんが乗ってます」に代表される車ステッカーが日本ではよく見られる。しかし、たとえば、ドイツではそういったステッカーの類は基本的に見られない。「初心者マーク」さえない。なぜだろうか。

(RQ2) ステッカーを貼る背景には、「初心者マーク」に代表される、他者への「配慮」要求があるのではないか。

(RQ3) ステッカーを用いて具体的な指示をするものは少なく、運転者自身の属性や運転方針をあえて表示するのはなぜか。それによって何を伝えようとしているのか。

(RQ4) そもそも伝達意図があるのか。ファッションなのではないか。そこに何らかのシンボル的な機能があるのか。アイデンティティや仲間意識の表明なのか。

3. 方法

・分析対象

車の後部、後続車のドライバーの視野に入る様々な言語景観

メーカー名、ロゴ、車種名、グレード表示、初心者マーク、
高齢者マーク、障害者マーク、リボンステッカー、
自動車保管場所標章、燃費基準達成車、
その他のステッカー類など

限定

「赤ちゃんが乗ってます」
「ドライブレコーダー録画中」など
主に<u>日本語表現が印字されたステッカー</u>

・分析の観点

形式、内容、機能

4. 結果（抜粋）

「赤ちゃんが乗ってます」
「Baby in Car」「Baby on board」
「妊婦が乗っています」「ときどき孫をのせてます」
「じじいが運転中」
「後方録画中　　ドライブレコーダ搭載車」
「Now on recording」
「速度抑制装置付」
「精密機械運搬中」
「産業廃棄物収集運搬車」
「法定速度を守っています」「安全運転宣言車」
「ゆっくり運転しています」
「お先にどうぞ　速度抑制装置装着車」
「車間距離注意」
「家に猫がいます」「水曜どうでしょう」など

5. 分析

・形式

名詞文　「安全運転宣言車」「精密機械運搬中」
終止形　「赤ちゃんが乗ってます」
副詞文　「お先にどうぞ」
英語表現「Baby on board」「Now on recording」

・内容

同乗者（物）の存在　「赤ちゃん」「妊婦」
車両装着機器の存在　「速度抑制装置」
車両装着機器の作動状態　「録画中」
運転者の属性や運転態度　「じじい」「法定速度守る」
ペット飼育情報/テレビ番組名　「家に猫」「水曜…」

・機能

注意喚起、勧め、状況説明、ファッション、遊び(ネタ)

6. 考察

ステッカー装着の意図

(1) 目的優先型：装着者の意図が明確

「お先にどうぞ　速度抑制装置装着車」（勧め）

「車間距離注意」（注意喚起）

(2) 情報優先型：読み手に意図を酌ませる

「赤ちゃんが乗ってます」

「ドライブレコーダー録画中」

「安全運転宣言車」

「精密機械運搬車」

「法定速度を守っています」

(3) 自己アピール型：装着者の個性強調

「家に猫がいます」「水曜どうでしょう」

≡6. 考察（続き１）

ステッカーのほとんどは、何らかの情報を表明

・同乗者（同乗物）や装着機器の表明

「赤ちゃんが乗ってます」「速度抑制装置付」

・装着機器作動中の表明

「ドライブレコーダー録画中」

・車両運搬物の表明

「精密機械運搬中」

・運転者の態度の表明

「法定速度を守っています」

・運転者の属性の表明

「じじいが運転中」

⇒ 情報提示のみ、その意図の明示的な表明なし
後続車への具体的な指示や注意喚起はまれ
後続する運転者に何を伝えようとしているのか不明

６．考察（続き２）

日本語のコミュニケーションの傾向に一致
　意図を明言しない：聞き手・読み手責任の言語

(listener/reader-responsible)

Cf. Hinds (1987)

「聞こえません」→「大きな声で話して」
「聞こえない」状況を表明 → この状況は不快 →これを解消するために必要なのは →「大きな声で話す状況創出」→「大きな声で話して」：
　解釈の枠組みが必要　　Cf. Nishijima (2010, 57)

➡ 発信者の意図を受信者が解釈するよう仕向け、何らかの配慮（行動）を後続車に期待？
　ならば、運転者もしくは運転する車両の状況提示
　「赤ちゃん同乗」→「ゆっくり走ります」：
　　どのような論理？

６. 考察（続き３）

ドイツには車ステッカーは存在しない

赤ちゃん・妊婦・老人・初心者など，どのような人物が運転していようが、精密機械の運搬のような、どんな状況であれ、公道では当該の交通法規に則って運転をすることがすべて（共通の行動ルールに従う）

交通法規を遵守した運転するのが「当たり前」のはず➡しかし、日本では事情が異なる

日本社会では、あえて「ゆっくり走ること」を示唆

なぜだろうか？

日本の公道では、現場の交通状況が法律に優先

法定速度を守らずに走行することが常態化

⇒ 様々な関与理由を提示し、ゆっくり運転を示唆

7．結論

ドイツとの比較により、日本のドライバーは制限速度などを必ずしも守らないなど、法律を状況により、主観的に解釈して行動する。その状況に反する行動をとるために、様々なステッカーを貼ることで対処している可能性がある。典型は、「初心者マーク」の存在。

ステッカーによる表現行動は、Hinds (1987)による「聞き手・読み手責任」の言語に分類される日本語談話の表現構造が反映している可能性があることが示唆された。

８．今後の展開

本研究で分析したステッカーは、運転中にたまたま目にしたものを記録したものであり、網羅的でない。体系的な収集方法を考える必要あり。また、比較はドイツしか行っていない。他の国々の事情との比較も必要。

車ステッカーは、スーパーのレジなどで店員が胸につけるバッジ「研修中」「アルバイト」との関連がありそう。客からの配慮（寛大さ）を求めている点で共通しているからである（これも日本の言語景観を構成？ 同じ背景？）。この比較は今後の課題とする。

ご清聴

ありがとうございました。

●文献

Hinds, J. (1987). Reader Versus Writer Responsibility: A New Typology. In U. Connor & R. B. Kaplan (Eds.), *Writing Across Languages: Analysis of L2 Text* (pp. 141-152). MA: Addison-Wesley.

警視庁ホームページ
（自動車の運転者が表示する標識（マーク）について）
https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotsu/mark/mark.html

Landry, R. & R. Y. Bourhis (1997). Linguistic Landscape and Ethnolinguistic Vitality: An Empirical Study. *Journal of Language and Social Psychology*, 16(1), pp. 23-49.

Nishijima, Y. (2010). Perspectives in Routine Formulas: A Contrastive Analysis of Japanese and German. *Intercultural Communication Studies*, 19(2), pp. 55-63.

西嶋義憲 (2018). 機能的に等価な日独対応表現の比較ー比較の合理性をめぐってー. 社会言語科学, 21(1), pp. 175-190.